

# 景 気 動 向 調 査

( 第 163 回 )

2011 年 10 月 ~ 12 月 期 実 績

2012 年 1 月 ~ 3 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

## 目 次

調査要領	.....	1
概 況	.....	2
1．県内景況感について	.....	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	.....	5
(2) 生産高または仕入高	.....	6
(3) 在 庫	.....	7
(4) 収 益	.....	8
(5) 販売価格・仕入価格	.....	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	.....	10
(2) 設備投資の目的	.....	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	.....	12
(2) 現金・預金	.....	13
(3) 金融機関借入	.....	13
(4) 販売代金回収期間	.....	14
(5) 仕入代金決済期間	.....	14
5．経営上の問題点について	.....	15

## 調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力のもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。尚、東日本大震災の影響により、2011年1月～3月期実績及び4月～6月期予測の調査については実施しておりません。

### 記

1. 実施時期            2011年11月下旬～2012年1月上旬
2. 調査対象期間      2011年10月～12月期実績  
                         2012年1月～3月期予測
3. 調査の方法        郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
4. 対象先             岩手県内企業 400社
5. 回答数             185通（回答率 46.25 %）  
                         <内訳> 製造業 62社 建設業 40社 卸・小売業 83社
6. 調査の主要項目    (1) 業況について  
                         (2) 設備投資の動向について  
                         (3) 資金繰りの状況について  
                         (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

#### 【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

# 概 況

2011年10～12月期の岩手県内企業の景況感D Iは、全体で△18.9と前期（7～9月期）△43.2より24.3ポイント上昇している。1～3月期の見通しは、景況感や販売価格は上昇する見通しが示されているが、売上高・収益や資金繰り等は低下を見通すものも有り、不安感は拭かれていない。

D I（景気動向指数）推移

全業種ベース	10～12月期実績	1～3月期見通し
景況感	△18.9	△4.5 ↑
売上高・出荷高	21.1	10.0 ↓
収益	12.6	0.6 ↓
販売価格	△3.8	2.7 ↑
仕入価格	32.5	34.3 ↑
資金繰り	1.6	△ 8.9 ↓

国内経済をみると、個人消費や設備投資等の内需は底堅く推移している。復興需要が公共投資だけではなく消費や民間投資に及び始めたことや、輸入コストの低下など円高メリット、高齢者向けビジネスの拡大等が理由に挙げられる。

一方、欧州経済・為替動向、イランをめぐる国際情勢等の不確定要素も存在し、国内景気回復にはもう暫くの時間を要す状況である。

岩手県内経済は、持ち直しの動きが継続しているが、復興需要による経済回復に一服感が出ている。個人消費や雇用情勢は持ち直しが継続するも、生産活動が僅かに減少。

企業収益は黒字確保するが、今後減少する見込みで、設備投資は増加の見込み。先行きは復興により持ち直しが期待されるが、海外経済や為替動向を注視する必要がある。

<参考>

岩手県内企業「景況感D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感D I
1	第153回	09年1～3月	△92.7
2	第152回	08年10～12月	△91.3
3	第124回	01年10～12月	△91.2
4	第109回	98年1～3月	△90.6
5	第111回	98年7～9月	△90.0

(1971(昭和46)年以降)

## 1. 県内景況感について

全体のD Iは、 $\Delta 18.9$ となっている。

各業種別のD Iをみると、製造業が $\Delta 45.2$ 、建設業が $25.0$ 、卸・小売業が $\Delta 20.4$ である。1～3月期見通しでは、製造業が $11.4$ ポイント、建設業が $2.5$ ポイント、卸・小売業が $21.6$ ポイントと全業種が上向き見通しとなっている。

## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

D Iは、全体では $21.1$ となっている。業種別では、製造業が $0.1$ 、建設業が $47.5$ 、卸・小売業が $24.1$ である。

### (2) 生産高または仕入高

製造業の生産高は $9.8$ 、卸・小売業の仕入高は $19.7$ となっている。

### (3) 在庫

製造業の製品在庫は $\Delta 9.8$ 、卸・小売業の商品在庫は $\Delta 9.3$ となっている。

### (4) 収益

D Iは、全体では $12.6$ となっている。業種別では、製造業が $\Delta 6.4$ 、建設業が $22.5$ 、卸・小売業が $22.8$ である。

### (5) 販売価格・仕入価格

販売価格は $\Delta 3.8$ 、仕入価格は $32.5$ となっている。

## 3. 設備投資の動向について

全体で見ると、設備投資を「実施した」企業は $24.1\%$ となっている。

業種別では、製造業が $27.4\%$ 、建設業が $23.7\%$ 、卸・小売業が $22.1\%$ である。

また、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、「生産・販売能力の増加」が2位、「省力化・合理化」と「経営の多角化」が3位となっている。

## 4. 資金繰り状況について

D Iは、全体では $1.6$ となっている。業種別では、製造業が $\Delta 3.3$ 、建設業が $7.8$ 、卸・小売業が $2.4$ である。

## 5. 経営上の問題点について

各業種とも「売上・受注不振」、「収益不振」、「販売価格安」が上位を占めている。

# 1. 県内景況感について

## ～ 各業種の景況実績、上向き傾向が継続 ～

〔10～12月期の実績〕 県内の景況感（前年同期比）をみると、**全業種**では「良い」と答えた企業が28.1%（前期17.2%）、「悪い」が47.0%（同60.4%）で、DIは△18.9（同△43.2）と、24.3ポイント上向いている。

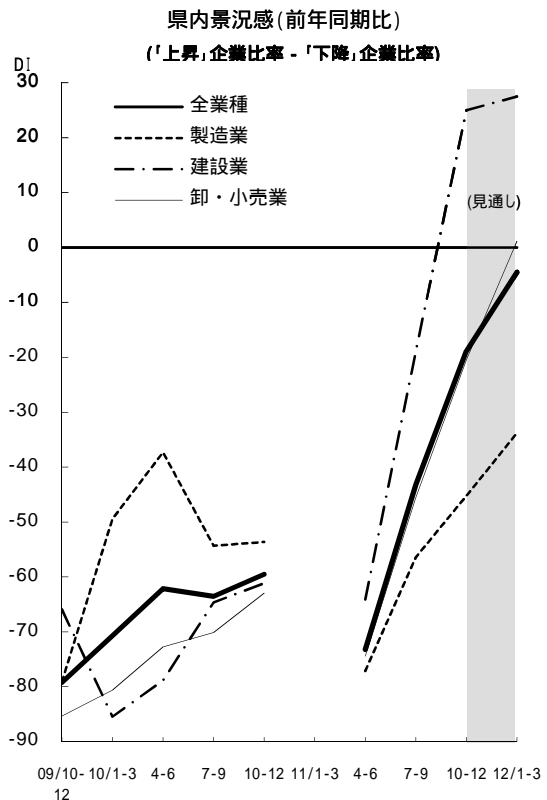
業種別の景況感（DI）をみると、**製造業**が△45.2（同△56.4）、**建設業**が25.0（同△24.3）、**卸・小売業**が△20.4（同△45.5）となっている。各業種で上向いており、建設業は49.3ポイント上向いている。

〔1～3月期の見通し〕 1～3月期見通し（前年同期比）をみると、**全業種**では「良くなる」とみる企業が33.1%、「悪くなる」が37.6%であることから、DIは △4.5となり、10～12月期実績と比較すると上向き見通しとなっている。

業種別にみると、**製造業**が△33.8、**建設業**が27.5、**卸・小売業**が1.2となっており、全業種が上向き見通しとなっている。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	10～12月 (実績)	2.2	25.9	24.9	32.4	14.6	-18.9
	1～3月 (見通し)	6.7	26.4	29.3	26.4	11.2	-4.5
(製造業)	10～12月 (実績)	0.0	14.5	25.8	38.7	21.0	-45.2
	1～3月 (見通し)	1.7	15.3	32.2	27.1	23.7	-33.8
(建設業)	10～12月 (実績)	10.0	42.5	20.0	15.0	12.5	25.0
	1～3月 (見通し)	12.5	40.0	22.5	20.0	5.0	27.5
(卸・小売業)	10～12月 (実績)	0.0	26.5	26.6	36.1	10.8	-20.4
	1～3月 (見通し)	7.6	27.8	30.4	29.1	5.1	1.2



## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

～ 実績は下向きに転じ、見通しも下向き方向 ～

【10～12月期の実績】 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」と答えた企業が53.5%(前期53.5%)、「減少」が32.4%(同30.9%)となり、D Iは21.1(同22.6)と1.5ポイント下降し、8期連続上向きが止まり下向きとなった。

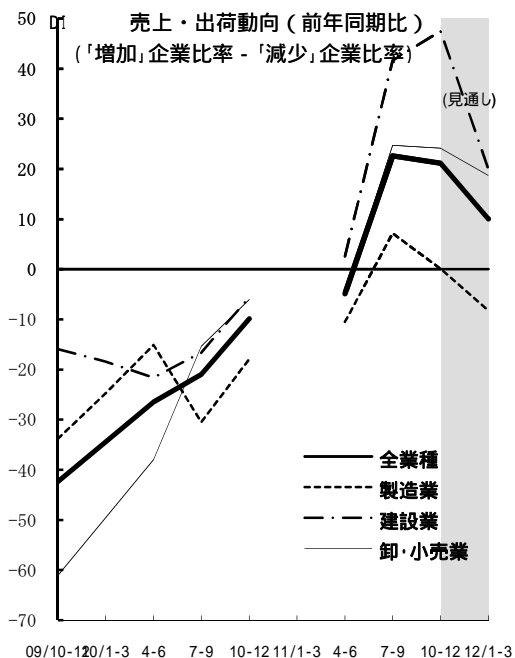
業種別にD Iをみると、**製造業** 0.1(前期△7.2)、**建設業** 47.5(同41.6)、**卸・小売業**24.1(同24.7)となっており、製造業と建設業は上向いている。

【1～3月期の見通し】 1～3月期見通し(前年同期比)をみると、**全業種**では「増加」とみる企業が41.5%、「減少」が31.5%であることから、D Iは10.0で、10～12月期実績と比較して下向き見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、**製造業**で△8.2、**建設業**で20.0、**卸・小売業**で18.7となっており、10～12月期実績と比較して各業種とも下向き見通しとなっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)						
	期	増加	やや増	不变	やや減	減少	D I	
全業種	10～12月 (実績)	16.2	37.3	14.1	21.6	10.8	21.1	
	1～3月 (見通し)	7.2	34.3	27.0	22.1	9.4	10.0	
(製造業)	10～12月 (実績)	19.4	24.2	12.9	27.4	16.1	0.1	
	1～3月 (見通し)	4.9	29.5	23.0	26.2	16.4	-8.2	
(建設業)	10～12月 (実績)	20.0	42.5	22.5	12.5	2.5	47.5	
	1～3月 (見通し)	7.5	40.0	25.0	22.5	5.0	20.0	
(卸・小売業)	10～12月 (実績)	12.0	44.6	10.9	21.7	10.8	24.1	
	1～3月 (見通し)	8.8	35.0	31.1	18.8	6.3	18.7	



## (2) 生産高または仕入高

### ～ 卸・小売業は実績・見通しとも上向く ～

〔10～12月期の実績〕 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）では「増加」と答えた企業が45.2%（前期45.4%）、「減少」が35.4%（同34.6%）で、DIは9.8（同10.8）と僅かながら下向きとなっている。

**卸・小売業**（仕入高）では、「増加」と答えた企業は49.4%（前期44.8%）、「減少」が29.7%（同31.6%）で、DIは19.7（同10.8）と8.9ポイント上向いている。

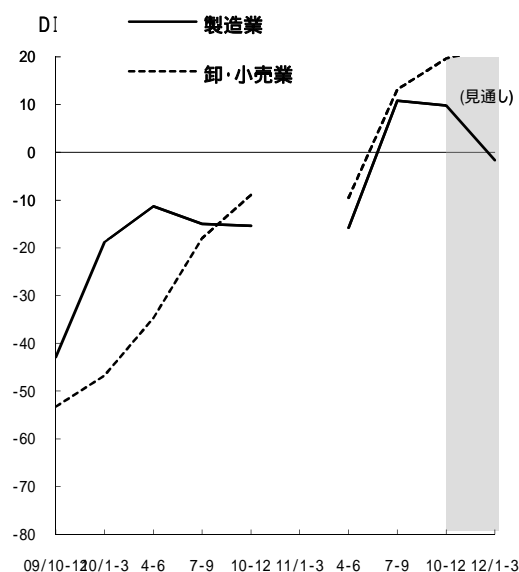
〔1～3月期の見通し〕 1～3月期見通し（前年同期比）をみると、**製造業**（生産高）については、「増加」と答えた企業が31.1%、「減少」が32.8%であることから、DIは△1.7で、10～12月期実績と比較して14.9ポイント下向く見通しとなっている。

**卸・小売業**（仕入高）については、「増加」と答えた企業が44.2%、「減少」が22.1%であることから、DIは22.1となり、10～12月期実績と比較して41.1ポイント上向く見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
(製造業)	10～12月 (実績)	22.6	22.6	19.4	17.7	17.7	9.8
	1～3月 (見通し)	4.9	26.2	36.1	19.7	13.1	-1.7
(卸・小売業)	10～12月 (実績)	11.1	38.3	20.9	19.8	9.9	19.7
	1～3月 (見通し)	9.1	35.1	33.7	16.9	5.2	22.1

生産・仕入動向(前年同期比)  
(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)





### (3) 在庫

#### ～ 製品在庫見通しは製造業が減少、卸・小売業は微減 ～

【10～12月期の実績】 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は19.3%（前期21.8%）、「減少」が29.1%（同32.8%）であることから、DIは△9.8（同△11.0）となった。また、原材料在庫水準については、「過大」が13.5%（同9.6%）、「適正」が78.8%（同77.0%）、「不足」が7.7%（同13.4%）である。

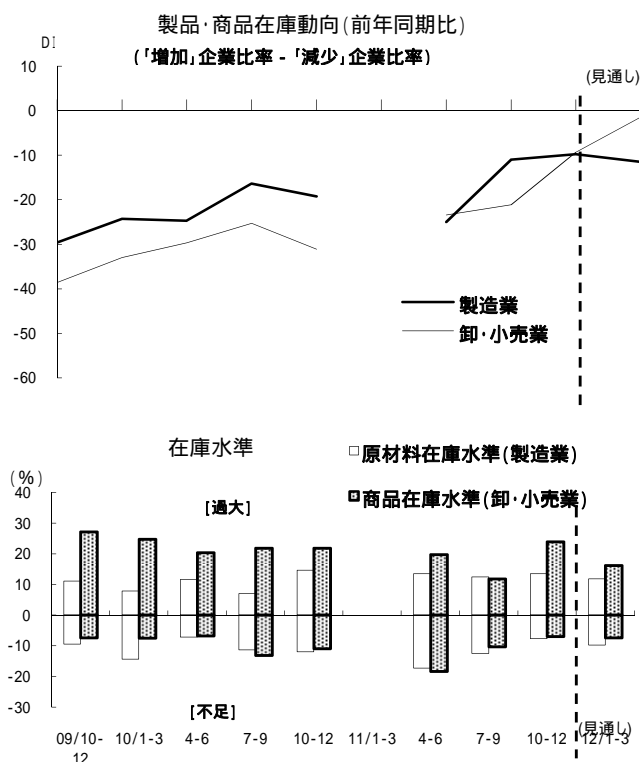
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が16.0%（前期14.3%）、「減少」は25.3%（同29.6%）であることから、DIは△9.3（同△21.1）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が23.9%（同21.8%）、「適正」が68.4%（同67.3%）、「不足」が7.7%（同10.3%）である。

【1～3月期の見通し】 1～3月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が13.1%、「減少」が24.6%で、DIは△11.5となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が11.8%、「適正」が78.4%、「不足」が9.8%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が19.5%、「減少」が20.9%であることから、DIは△1.4となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が16.2%、「適正」が76.4%、「不足」が7.4%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	10～12月 （実績）	4.8	14.5	51.6	21.0	8.1	-9.8
	1～3月 （見通し）	1.6	11.5	62.3	13.1	11.5	-11.5
（卸・小売業）	10～12月 （実績）	2.7	13.3	58.7	20.0	5.3	-9.3
	1～3月 （見通し）	1.4	18.1	59.6	16.7	4.2	-1.4



#### (4) 収 益

##### ～ 各業種とも収益は下向き～

〔10～12月期の実績〕 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が46.8%（前期47.0%）、「減少」が34.2%（同32.1%）であり、D Iは 12.6（同△14.9）となり2.3ポイント下向いている。

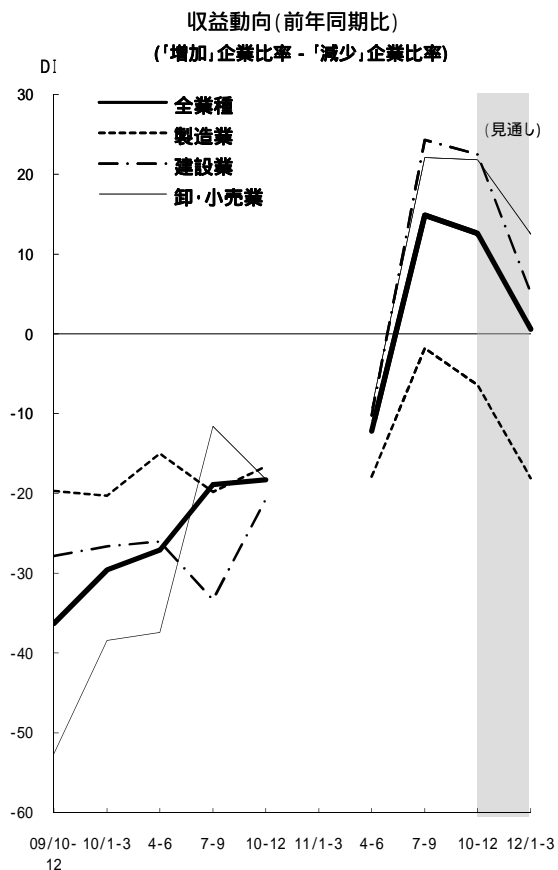
業種別にD Iをみると、**製造業**△6.4（前期△1.8）、**建設業** 22.5（同△24.3）、**卸・小売業** 21.8（同22.1）と、全業種で下向きとなっている。

〔1～3月期の見通し〕 1～3月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が32.3%、「減少」とみる企業が31.7%であることから、D Iは 0.6で、10～12月期実績と比較して12.0ポイント下向く見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、**製造業** 18.1、**建設業**5.2、**卸・小売業**12.5で、10～12月期実績と比較して、各業種とも下向く見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	10～12月 (実績)	10.9	35.9	19.0	22.8	11.4	12.6
	1～3月 (見通し)	6.7	25.6	36.0	18.9	12.8	0.6
(製造業)	10～12月 (実績)	14.5	24.2	16.2	29.0	16.1	-6.4
	1～3月 (見通し)	4.9	21.3	29.5	24.6	19.7	-18.1
(建設業)	10～12月 (実績)	12.5	32.5	32.5	15.0	7.5	22.5
	1～3月 (見通し)	10.3	23.1	38.4	20.5	7.7	5.2
(卸・小売業)	10～12月 (実績)	7.3	46.3	14.6	22.0	9.8	21.8
	1～3月 (見通し)	6.3	30.0	39.9	13.8	10.0	12.5



(5) 販売価格・仕入価格

～ 販売・仕入価格とも上向き傾向継続～

〔10～12月期の実績〕 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が22.0%（前期14.3%）、「低下」が20.4%（同20.9%）であることから、DIは△3.8（同△6.6）と上向いている。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が39.6%（前期32.0%）「低下」が7.1%（同8.9%）であることから、DIは△32.5（同23.1）と上向き傾向は継続している。

〔1～3月期の見通し〕 1～3月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が19.6%、「低下」とみる企業が16.9%であることから、DIは2.7で、10～12月期実績と比較して上向き見通しとなっている。

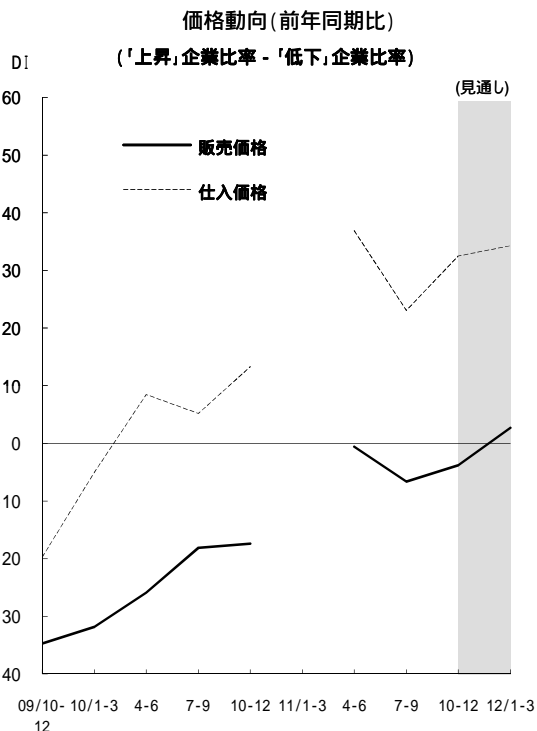
仕入価格については、「上昇」とみる企業が39.3%、「低下」とみる企業が5.0%であることからDIは34.3となり、10～12月期実績と比較して上向き見通しとなっている。

販売価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	10～12月 (実績)	0.6	16.0	63.0	16.0	4.4	-3.8
	1～3月 (見通し)	1.1	18.5	63.5	13.5	3.4	2.7

仕入価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	10～12月 (実績)	3.3	36.3	53.3	5.5	1.6	32.5
	1～3月 (見通し)	2.8	36.5	55.7	3.9	1.1	34.3



### 3.設備投資の動向について

#### (1) 設備投資の実施状況

～ 実績・見通しとも上向く ～

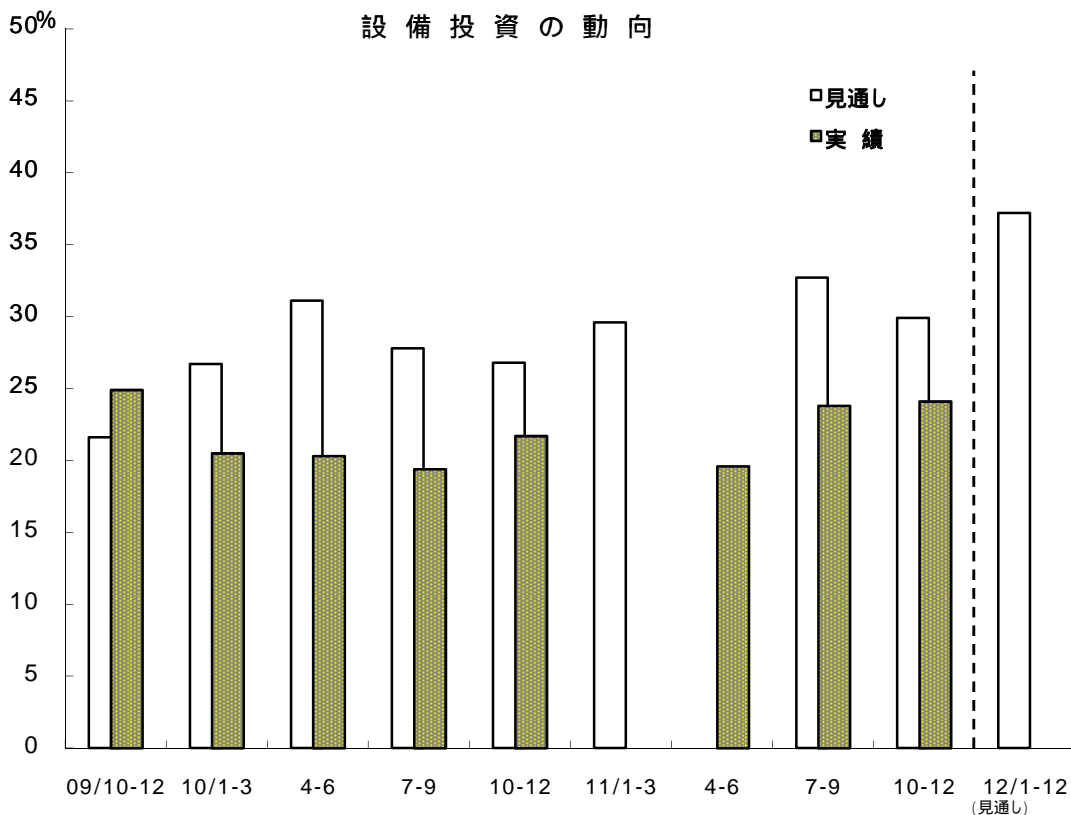
[10～12月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は24.1%（前期23.8%）と上向いている。

これを業種別にみると、製造業27.4%（前期26.0%）、建設業23.7%（同11.4%）と上向いており、卸・小売業22.1%（同28.0%）は下向いている。

[1～3月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で17.8%（前期11.0%）、「計画はあるが具体化していない」は19.4%（同18.9%）、「計画はない」は62.8%（同70.1%）であった。

「計画あり」は合計37.2%（同29.9%）と前期予想を上回る見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で42.7%（前期29.7%）、建設業で28.2%（同11.8%）、卸・小売業で37.6%（同38.2%）の見通しとなっている。



## (2) 設備投資の目的

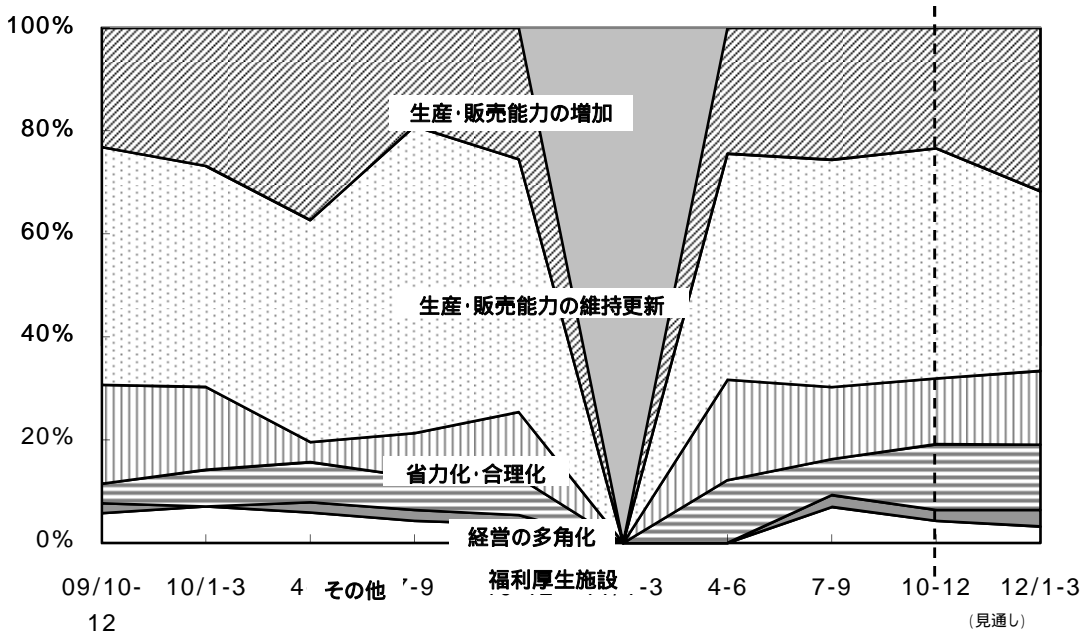
[10～12月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(20.3%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が44.7%（前期49.1%）でトップとなり、「生産・販売能力の増加」が23.4%（同25.5%）で2位、「省力化・合理化」と「経営の多角化」が同率の12.8%（同12.7%）で3位となっている。

業種別にみると、全業種で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、卸・小売業では「生産・販売能力の増加」が2位となっている。建設業では「生産・販売能力の維持更新」と「生産・販売能力の増加」が同率1位となっている。

[1～3月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(37.2%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が34.9%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」31.7%、「省力化・合理化」14.3%の順となっている。

業種別では、製造業、建設業では「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっているが、卸・小売業では「生産・販売能力の増加」がトップである。

設備投資の目的



## 4. 資金繰り状況について

### (1) 資金繰り状況

～ 資金繰りは実績・見通しとも下向く ～

[10～12月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が26.1%(前期29.6%)、「苦しくなった」が24.5%(同19.6%)であることから、D Iは1.6(同10.0)と下向いている。

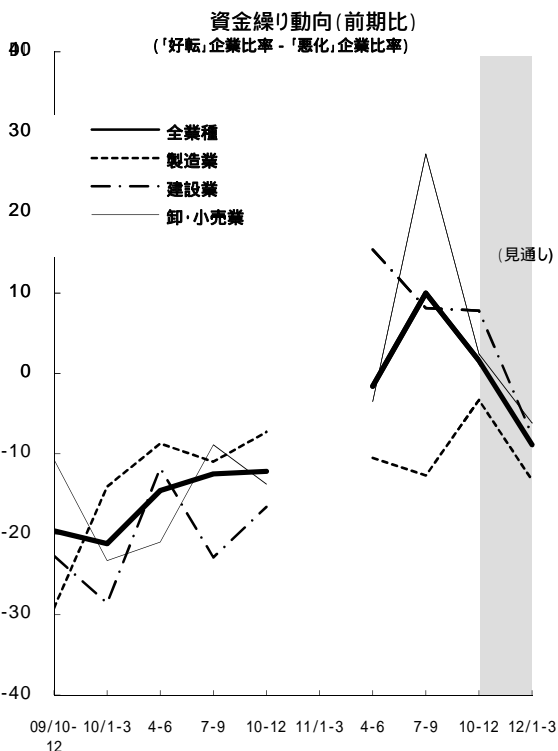
業種別にD Iをみると、製造業が3.3(前期12.7)と小幅に上向いているが、建設業が7.8(同8.1)、卸・小売業は2.4(同27.3)と共に下向いている。

[1～3月期の見通し] 1～3月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が19.4%、「苦しくなる」が28.3%で、D Iは-8.9となり、10～12月期実績と比較して、下向く見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業13.3、建設業7.7、卸・小売業6.2となっており、10～12月期実績と比較して、全業種で下向く見通しとなっている。

資金繰り(前期比)

		(% )						
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	D I	
全業種	10～12月 (実績)	8.7	17.4	49.4	21.2	3.3	1.6	
	1～3月 (見通し)	5.0	14.4	52.3	23.3	5.0	-8.9	
(製造業)	10～12月 (実績)	12.9	14.5	41.9	24.2	6.5	-3.3	
	1～3月 (見通し)	6.7	13.3	46.7	23.3	10.0	-13.3	
(建設業)	10～12月 (実績)	10.3	15.4	56.4	12.8	5.1	7.8	
	1～3月 (見通し)	5.1	15.4	51.3	23.1	5.1	-7.7	
(卸・小売業)	10～12月 (実績)	4.8	20.5	51.8	22.9	0.0	2.4	
	1～3月 (見通し)	3.7	14.8	56.8	23.5	1.2	-6.2	



## (2) 現金・預金

[10～12月期の実績] 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が27.2%（前期31.7%）、「減少した」が27.7%（同24.0%）であることから、DIは 0.5（同7.7）と下向いている。

[1～3月期の見通し] 1～3月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が16.5%、「減少する」が30.1%であることから、DIは 13.6（当期 18.3）と下向く見通しとなっている。

## (3) 金融機関借入

[10～12月期の実績] 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が25.2%（前期24.7%）、「減少した」が28.1%（同22.9%）であることから、DIは 2.9（同1.8）と下向いている。

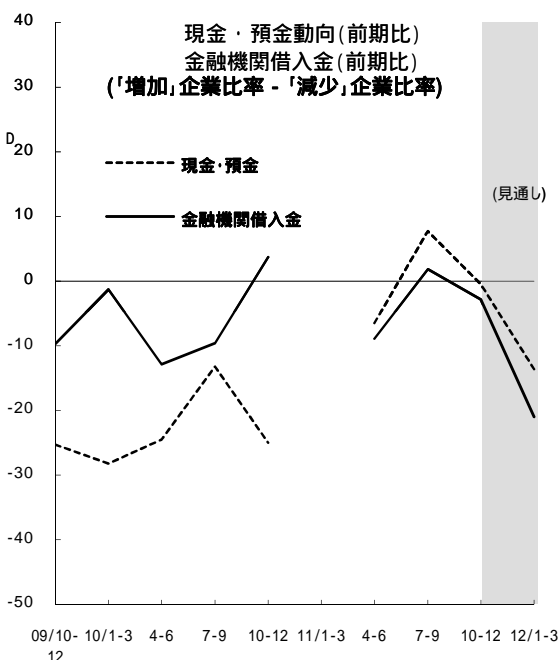
[1～3月期の見通し] 1～3月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が12.2%、「減少する」が33.2%であることから、DIは 21.0（前期 0.7）と大幅に下向く見通しとなっている。

現金・預金(前期比)

		（％）						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI	
全業種	10～12月 (実績)	6.0	21.2	45.1	23.9	3.8	-0.5	
	1～3月 (見通し)	2.3	14.2	53.4	24.4	5.7	-13.6	

金融機関借入金(前期比)

		（％）						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI	
全業種	10～12月 (実績)	3.9	21.3	46.7	23.0	5.1	-2.9	
	1～3月 (見通し)	3.5	8.7	54.6	29.7	3.5	-21.0	



#### (4) 販売代金回収期間

[10～12月期の実績] 販売代金回収期間(前期比)については、「短くなった」とする企業が7.6%(前期5.4%)、「長くなった」が9.3%(同7.7%)であることから、DIは1.7(同2.3)となった。また、83.1%(同86.9%)の企業は「変わらない」としている。

[1～3月期の見通し] 1～3月期の見通し(当期比)をみると、「短くなる」とみる企業が5.7%、「長くなる」が7.9%であることから、DIは2.2(前期7.3)となる。また、86.4%の企業は「変わらない」とみている。

#### (5) 仕入代金決済期間

[10～12月期の実績] 仕入代金決済期間(前期比)については、「長くなった」とする企業が1.6%(前期3.6%)、「短くなった」が7.1%(同1.8%)であることから、DIは5.5(1.8)となった。また、91.3%(同94.6%)の企業は「変わらない」としている。

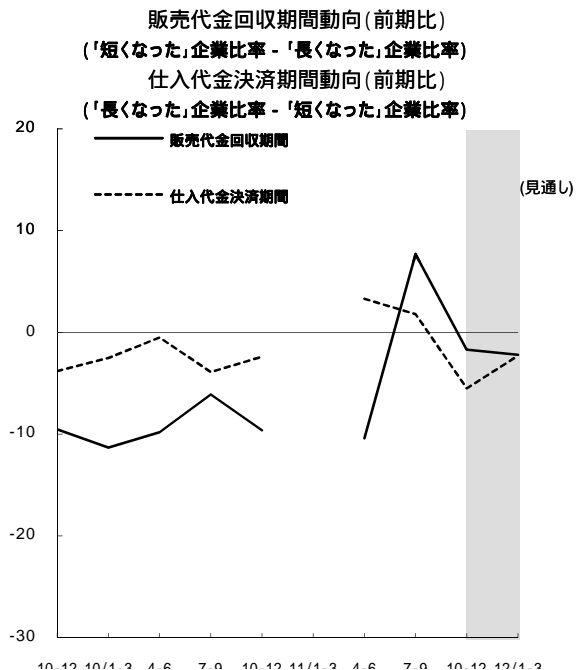
[1～3月期の見通し] 1～3月期の見通し(当期比)をみると、「長くなる」とみる企業が2.8%、「短くなる」が5.1%であることから、DIは2.3(前期0.6)となる。また、92.1%の企業は「変わらない」とみている。

販売代金回収期間(前期比)

		(% )					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	10～12月 (実績)	1.6	6.0	83.1	8.2	1.1	-1.7
	1～3月 (見通し)	0.6	5.1	86.4	5.6	2.3	-2.2

仕入代金決済期間(前期比)

		(% )					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	10～12月 (実績)	0.5	1.1	91.3	6.6	0.5	-5.5
	1～3月 (見通し)	0.0	2.8	92.1	4.5	0.6	-2.3





## 5. 経営上の問題点について

～ 建設業の「人手不足」が顕著 ～

10～12月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」20.7%（前期25.4%）、「収益不振」15.6%（同12.2%）、「販売価格安」12.0%（同10.9%）の順となり、問題点の上位に変更はない。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「売上・受注不振」26.1%（同35.5%）がトップとなり、「原材料・仕入価格高」17.4%、「販売価格安」12.2%の順となっている。建設業では「人手不足」20.3%（同10.3%）がトップとなり、「過当競争」18.8%、「収益不振」15.9%の順となっている。卸・小売業では「過当競争」21.0%（同25.7%）、「売上・受注不振」19.6%、「販売価格安」13.3%の順となっている。

経営上の問題点

